世田谷村日記　　石山修武

七月九日

長田弘が新聞にエッセイを書いている。「長田弘さんからあなたに」人生の特別な人に宛てて、抒情の変革の詩人は成熟して深みを増している。うらやましい限りだ。この類のタイトルが容易に示すようなエッセイは得てして独りよがりなセンチメンタリズムに落ち入りやすいものだが、長田弘はそれを一線の距離、紙一重でぎりぎりにしのいでいる。しのがせているのは文体であり、それでしかない。古い同級生、見知らぬ街での死、たった一通の手紙と内容を要約すれば陳腐さそのものの行列なのだが、長田はそこにある種の品位を与えているように感じた。しかし、よくよく考えていみるならば、実人生は陳腐としか言い様のない事の連続であるから、その現実をどう表現してるかが人間の品位というものになるのかな。日々の生活は表現なのである。誰でもが表現者なんだ。

午後遅く大学へ。陸海博士論文「ダム建設における非自発移民住居の研究」相談。中国は世界最大の移住民を国内に抱えながら、北京オリンピックの達成に向けて走っている。夕方、八大建設西山社長来室。西山さんは、私の大学院時代からの長い附合いで、今日はこの四〇年近くの附合いの再確認を残そうと言う、マア、歴史的な会合であった。色んな事があるけれど、ディテールにかまけず、突切って行かねばなるまい。西山社長の如きは私にとって取り代えのきかない、存在なのである。十八時大巾に過ぎ、新宿西口、住友ビルで西山社長と会食。土佐料理ねぼけ。二〇時過半過ぎ頃修了。西山社長と別れ、世田谷村へ。本当にやりたい事をやるならば、西山社長位をスタッフにした方がいいのだよね。この真底を身体で理解するのに随分な無駄な時間をかけてしまった。二十一時半頃世田谷村戻る。

七月十日　日曜日

休み

七月十一日

十時過大学。昨夜来日した李祖原と北京Ｐに関して打合わせ。大づめに近附いてきた。十二時過迄。昼食後Ｗ氏来室、北京ビジネスモデルのつめ。十五時迄。小休。中国の仕事に関してはお金の話しに結局は終始して、実にハードであるが乗り切りたい。

夕方迄、李祖原と打合わせを続ける。十九時近江屋で夕食。李祖原と共にロンドンのＭｒＫとモバイルで話す。何とか北京オリンピック周辺のＷＯＲＫは成し遂げたい旨伝える。二〇時半頃迄。今晩は一時間程この件に関して考えを巡らせる必要があるな。二十二時前世田谷村に戻る。